絶句（送別・望郷）　―訓読―

送元二使安西　　王維

渭城の朝雨　軽塵を浥す
客舎　青青　柳色　新たなり
君に勧む　更に尽くせ　一杯の酒
西のかた陽関を出づれば　故人無からん

勧酒　　于武陵

君に勧む　金屈巵
満酌　辞するを須ゐず
花発きて　風雨多し
人生　別離足る

涼州詞　　王翰

葡萄の美酒夜光の杯
飲まんと欲すれば琵琶馬上に催す
酔ひて沙場に臥すとも君笑ふこと莫かれ
古来征戦幾人か回る

静夜思　　李白

牀前　月光を看る
疑ふらくは是れ　地上の霜かと
頭を挙げて　山月を望み
頭を低れて　故郷を思ふ